資料１

# 弥彦村の現状と課題について

平成26年10月 6日
燕・弥彦地域公共交通会議

# 1.検討の背景（上位・関連計画）

○弥彦村は、村内の役場周辺、弥彦駅・弥彦神社周辺、支援センター周辺の連携を強化するとともに、燕市との連携を強化していくこととしている。
○村内・村外の連携強化に向け、特に、高齢者の移動支援策の一つとして、広域循環バスの運行や「おでかけきららん号」の運行拡大が掲げられている。

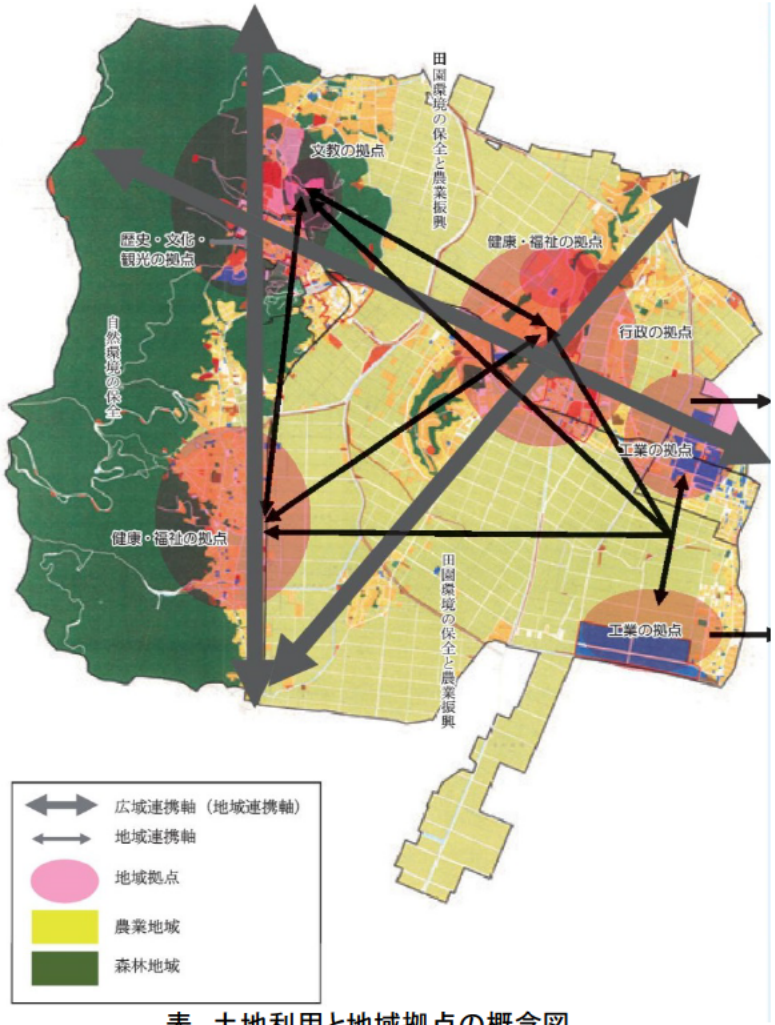


表　土地利用と地域拠点の概念図

出典：弥彦村第5次総合計画

表　燕・弥彦地域定住自立圏の連携・協力事業（案）

| | 分野 | 内容 |
|---|---|---|
| 生活機能の強化 | 1.医療・福祉 | ○病児・病後児保育事業<br>燕市で実施している病児・病後児保育事業の広域的運営 |
| | 2.産業振興 | ○観光エリア魅力アップ促進事業<br>①首都圏観光PR事業<br>②受入体制整備事業<br>③2次交通整備事業<br>④道の駅整備事業<br>⑤観光エリアマップ等政策事業<br>⑥燕・弥彦コラボ企画事業<br>○県央大橋西詰周辺地域整備事業<br>燕・弥彦地域の表玄関としての整備の検討 |
| | 3.その他 | 上記のほか圏域内の生活機能の強化に関する取り組み |
| 結びつきやすいネットワークの強化 | 4.地域公共交通 | ○広域循環バス運行事業<br>両市を結んで主要駅や病院等を経由するバス路線の整備<br>○予約制乗合ワゴン車運行拡大事業<br>燕市で運行している「おでかけきららん号」の運行エリアの弥彦村への拡大及び両市村での広域的運行 |
| | 5.その他 | 上記のほか結びつきやすいネットワークの強化に関する取り組み |
| 圏域マネジメント能力の強化 | 6.中心市等における人材の育成 | ○職員の資質向上と政策形成能力やマネジメント能力等の業務に必要な能力向上のための合同専門研修の実施 |
| | 7.中心市等における外部からの行政及び民間人材の確保 | ○行政分野の取り組みに必要な専門知識等を有する人材の確保 |
| | 8.その他 | 上記のほか圏域マネジメント能力の強化に関する取り組み |

出典：第2回燕・弥彦定住自立圏推進協議会資料

# 2.弥彦村の現状

## 2-1. 人の動き

○多くの村民は、自家用車で燕市吉田地区で買い物。
○買い物頻度は週2～3回程度。

○多くの村民は、村内又は吉田地区に通院。燕地区や新潟市にも通院している。
○通院手段は、多くが自家用車。
○通院頻度は月1～2回程度。

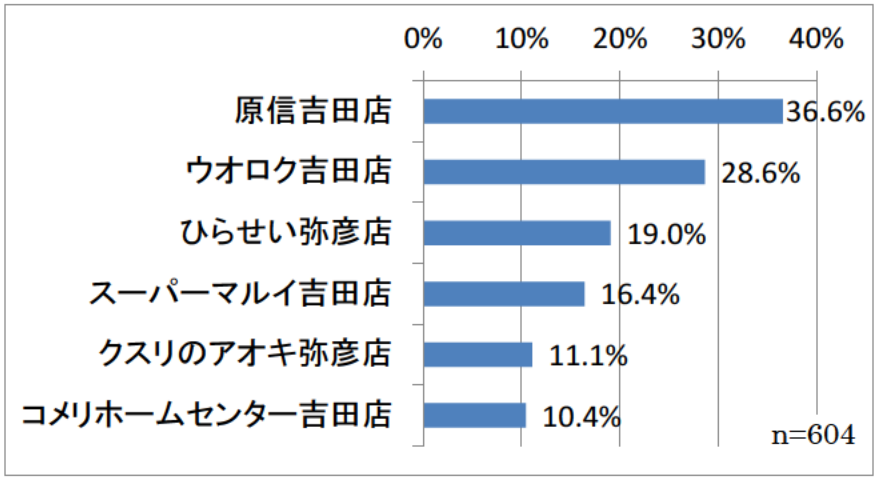


図　よく行くスーパー（村民アンケートで5%以上が回答した施設）

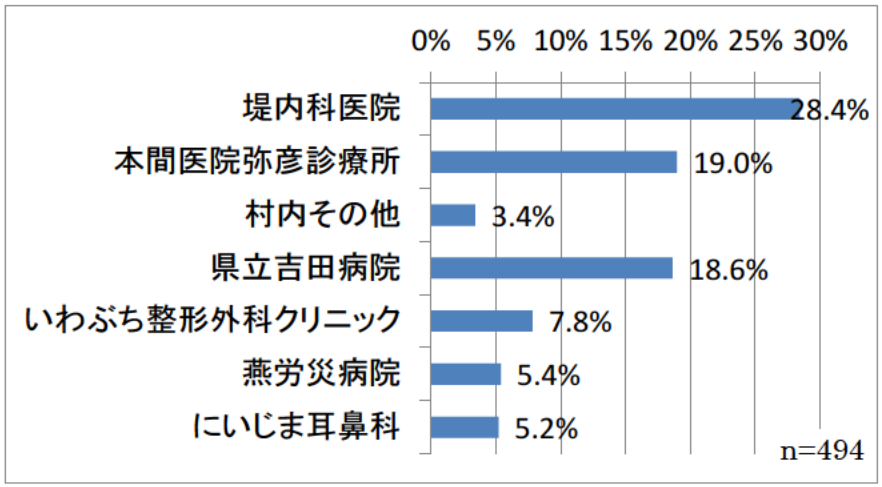


図　よく行く医療施設（村民アンケートで5%以上が回答した施設）

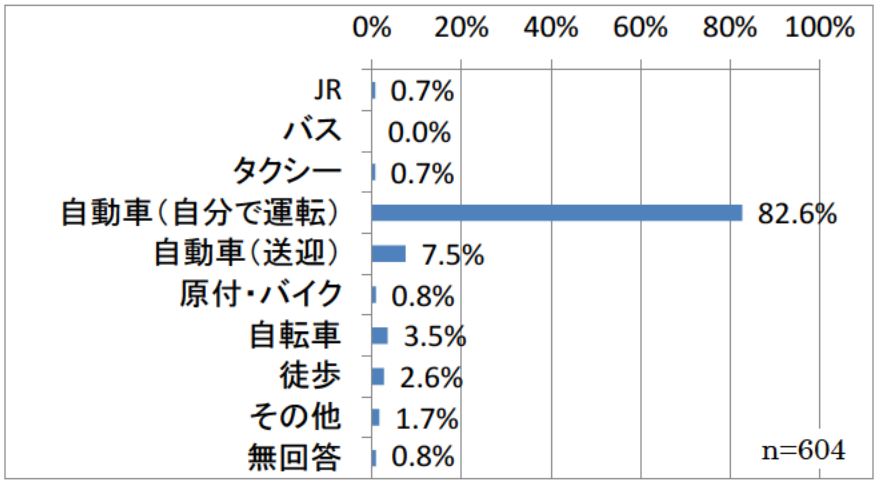


図　買い物の手段

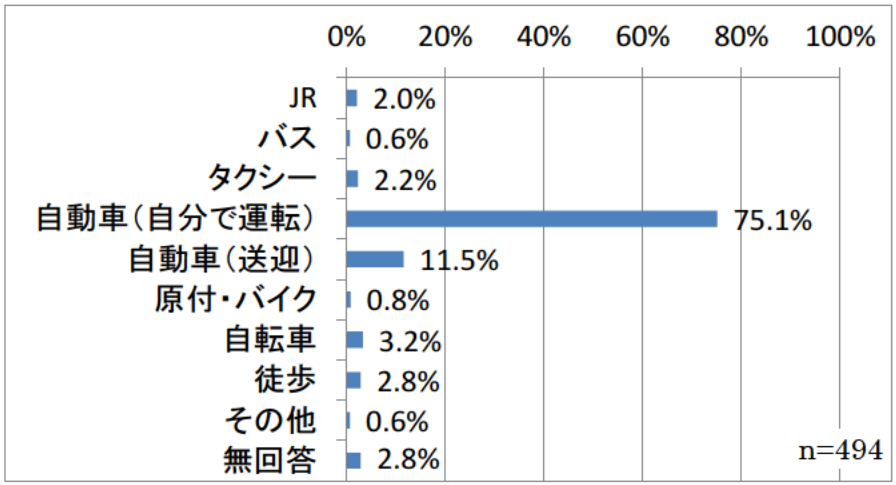


図　通院の手段

資料：平成26年住民アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-1. 人の動き

〇村外で働く人が6割おり、燕市や西蒲区で就業。
〇高校生は、燕市だけでなく、西蒲区や三条市まで通学。

表　村内の中学生の進路

| 学校名 | 所在 | 高3 | 高2 | 高1 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 吉田高校 | 燕市 | 8 | 12 | 17 | 37 |
| 巻総合高校 | 新潟市西蒲区 | 14 | 11 | 9 | 34 |
| 三条高校 | 三条市 | 7 | 5 | 8 | 20 |
| 巻高校 | 新潟市西蒲区 | 7 | 8 | 4 | 19 |
| 三条商業高校 | 三条市 | 9 | 4 | 4 | 17 |
| 三条東高校 | 三条市 | 6 | 5 | 5 | 16 |
| 分水高校 | 燕市 | 2 | 8 | 2 | 12 |
| 新潟西高校 | 新潟市西区 | 2 | 5 | 4 | 11 |
| 新潟工業高校 | 新潟市西区 | 5 | 3 | 3 | 11 |
| 新潟県央工業高校 | 三条市 | 2 | 1 | 5 | 8 |
| その他 | | 14 | 21 | 2 | 37 |
| 合計 | | 76 | 83 | 63 | 222 |

※公立高校全日制、私立高校、高等専門学校

図　高校の分布

# 2.弥彦村の現状

## 2-2. 自家用車に関する村民の現状

〇村民の多くは、高齢になっても、身体的に運転が可能な限り自家用車を運転し続ける意向。
〇高齢者の方が、全体の平均よりもクルマをやめる年齢が高くなる傾向。

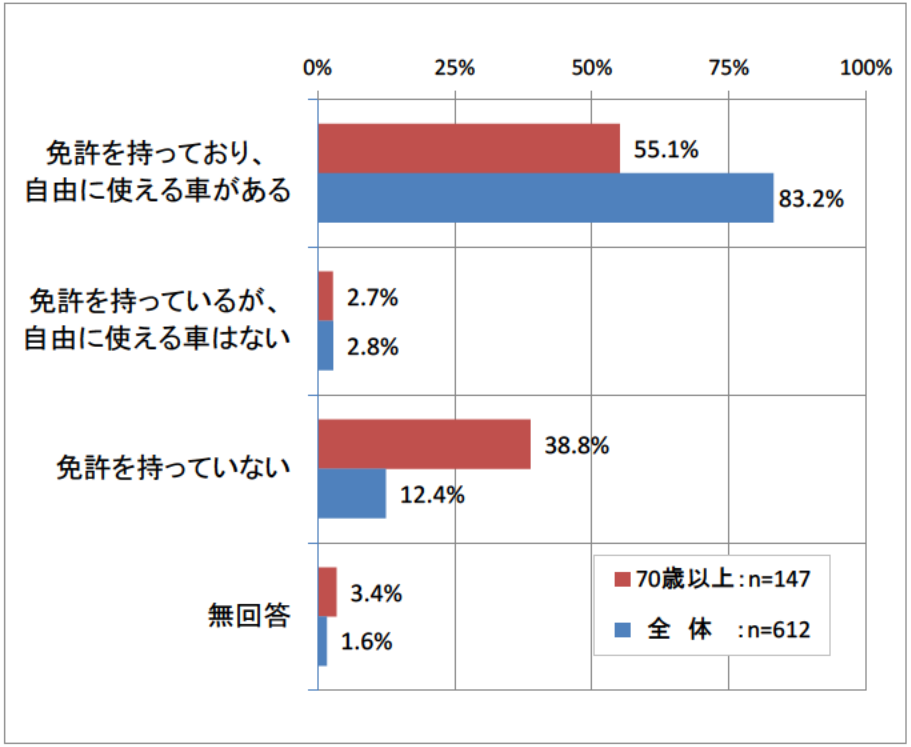


図　免許保有状況

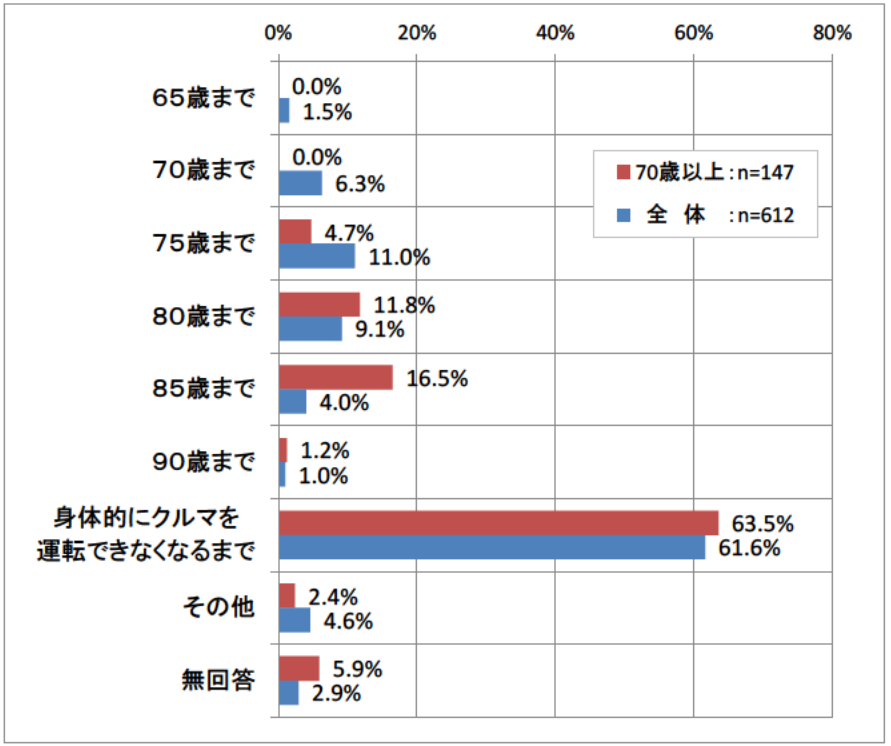


図　自家用車をやめようと思う年齢

資料：平成26年住民アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-3. 公共交通

### (1)公共交通網

○村内の地域公共交通は、燕三条駅と連絡するJR弥彦線と、弥彦駅に接続する巡回バスが運行。
○巡回バスのダイヤは、JR弥彦線との乗り継ぎをあまり想定しておらず、利用も少ない。
○新潟市や長岡市方面は、JR弥彦線の吉田駅で乗り継ぎJR越後線でアクセス。

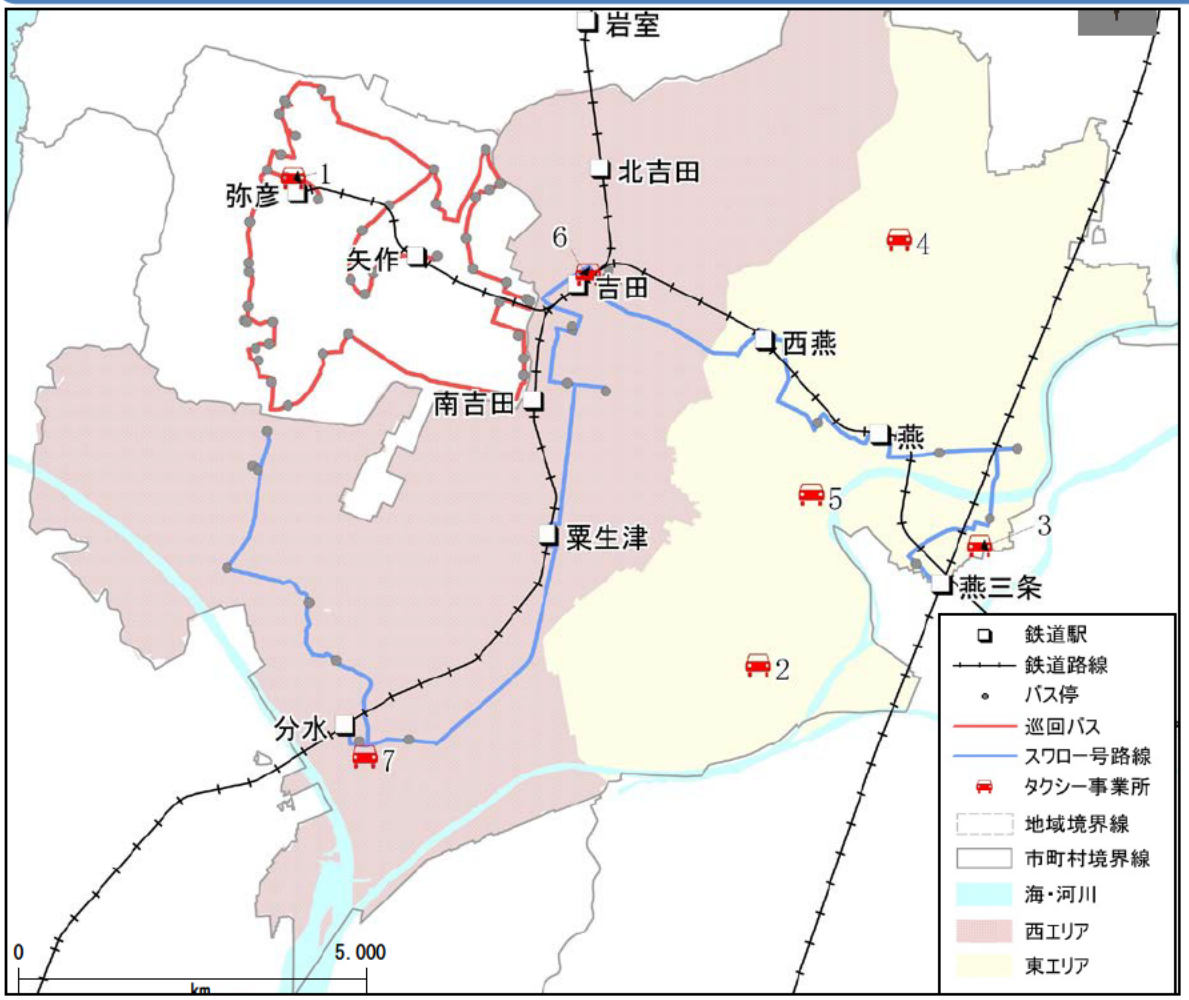


図　公共交通網図

表　弥彦駅での巡回バスとJR弥彦線の乗り継ぎ

| 巡回バス 弥彦駅着 | JR弥彦線 弥彦駅発 | 待ち時間 | 15分以内の乗り継ぎ |
|---|---|---|---|
| 9:56 | 10:05 | 0:09 | ○ |
| 11:41 | 12:20 | 0:39 | × |
| 13:46 | 15:15 | 1:29 | × |
| 16:56 | 17:20 | 0:24 | × |

| JR弥彦線 弥彦駅着 | 巡回バス 弥彦駅発 | 待ち時間 | 15分以内の乗り継ぎ |
|---|---|---|---|
| 9:30 | 10:28 | 0:58 | × |
| 11:10 | 12:46 | 1:36 | × |
| 13:15 | 13:46 | 0:31 | × |

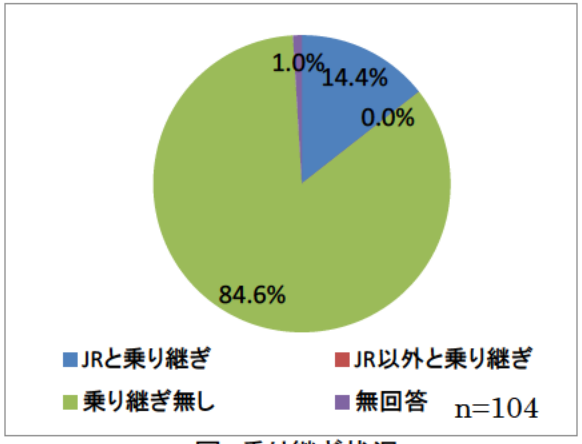


図　乗り継ぎ状況

資料：平成26年巡回バス利用者アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-3. 公共交通

### (2)巡回バス

#### ①運行内容と利用者数

〇利用者数は、時計回りの朝一便が多いものの、その他の便は5人前後と多くない。
〇役場近辺、麓、弥彦の住民が、支援センターや弥彦駅周辺、役場周辺に行くために利用。
特に、朝一便で支援センターに行き、午後最終便で帰宅という利用が多い。

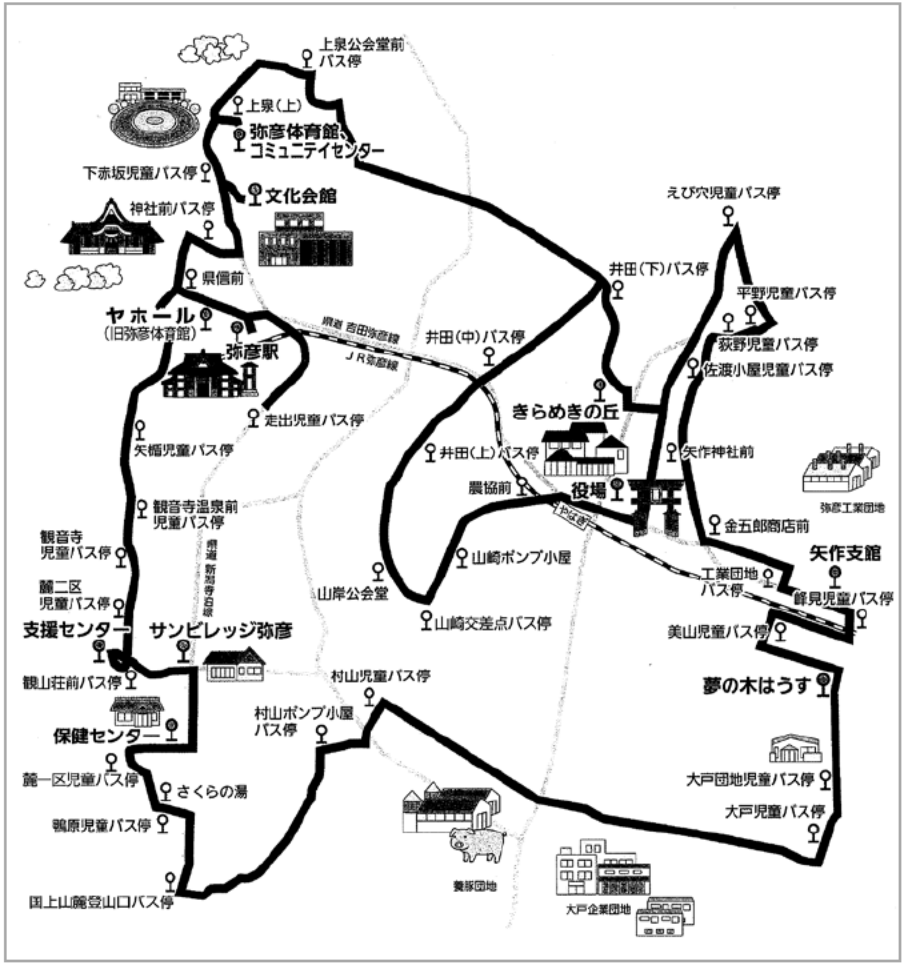


図　巡回バス路線図

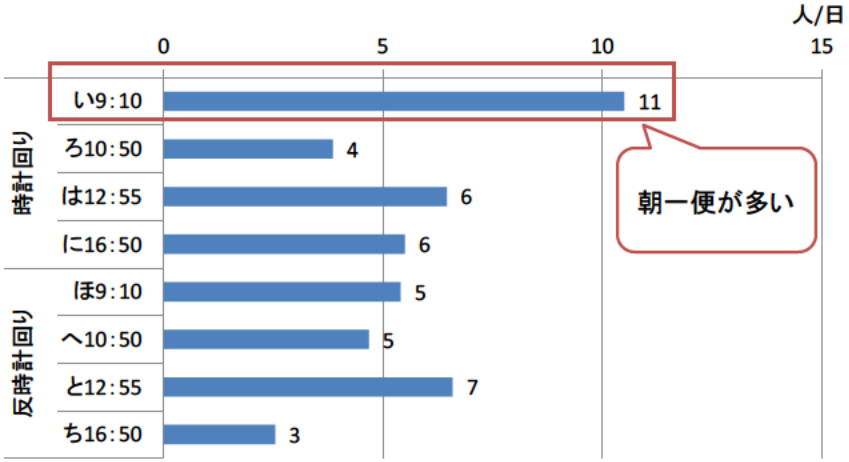


図　便別利用者数（平成26年4～5月平均）

表　巡回バスの乗降者数が2人/日以上のバス停（平成26年4～5月平均）

| バス停名 | 1日あたり乗降者数（人／日） | バス停名 | 1日あたり乗降者数（人／日） |
|---|---|---|---|
| 支援センター | 24 | 神社前 | 4 |
| 役場 | 7 | 夢の木ハウス | 3 |
| 弥彦駅 | 7 | 農協前 | 3 |
| 県信前 | 5 | 村山ポンプ小屋 | 2 |
| ヤホール | 4 | 国上山麓登山口 | 2 |
| 矢幡児童 | 4 | 走出児童 | 2 |

# 2.弥彦村の現状

## 2-3. 公共交通

### (2)巡回バス

#### ②利用者属性

○利用者は、免許を持たない60歳以上の高齢女性が大半を占める。

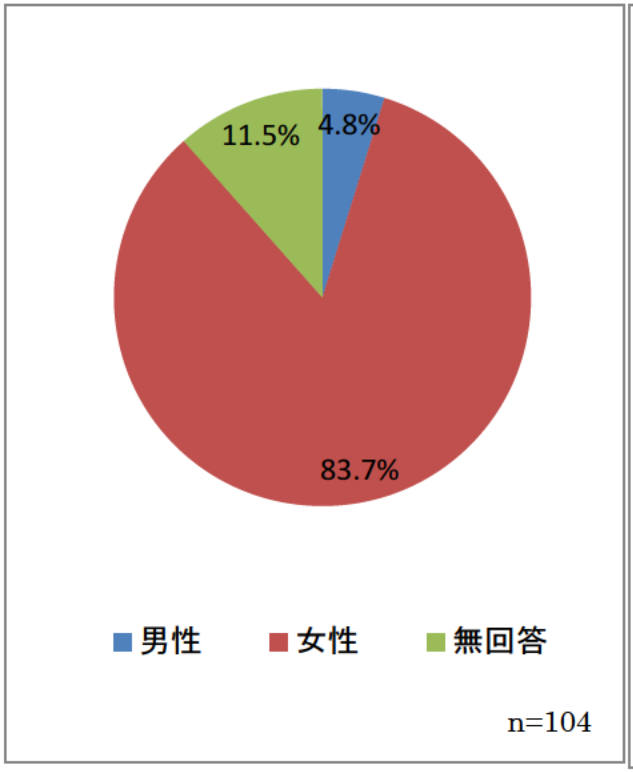


図　性別

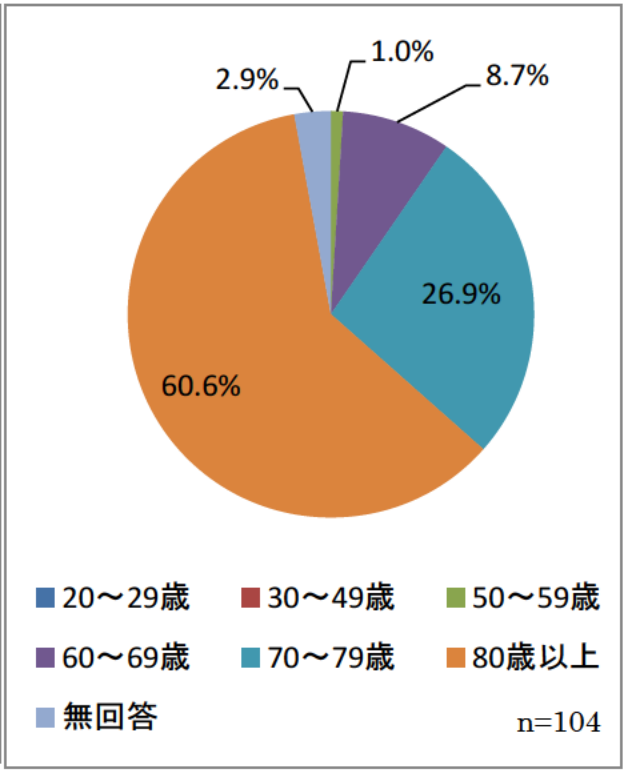


図　年齢

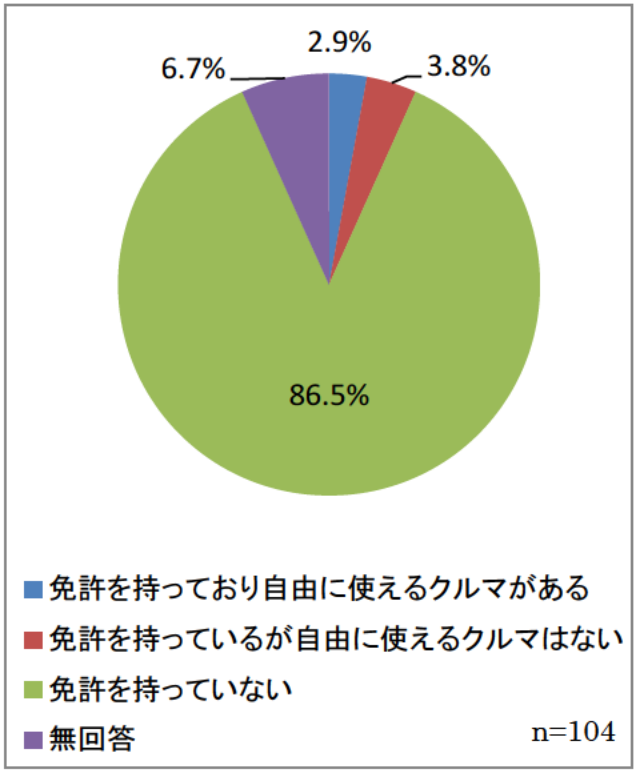


図　免許保有状況

資料：平成26年巡回バス利用者アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-3. 公共交通

### (2)巡回バス

#### ③利用者評価

○現状では、利用者満足度は高いものの、ダイヤやJRとの乗り継ぎへの改善要望がある。
また、吉田地区の施設へのアクセスや月・木も含めた平日毎日の運行も望まれている。

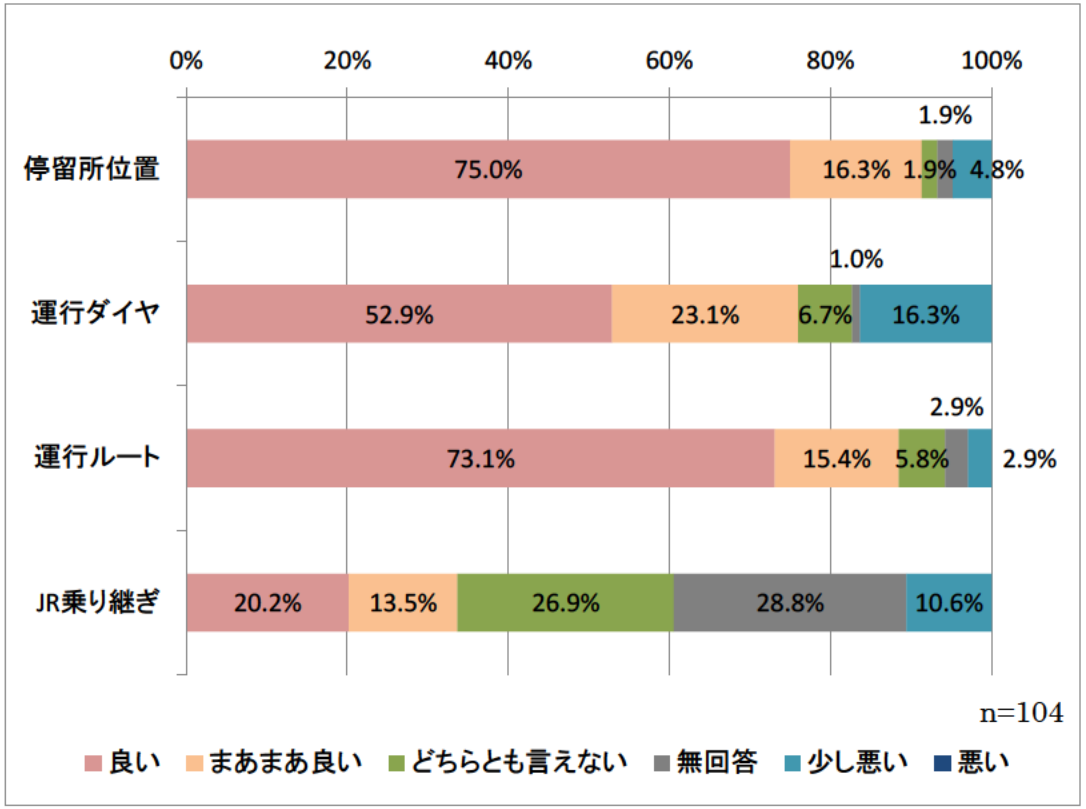


図　巡回バスの満足度

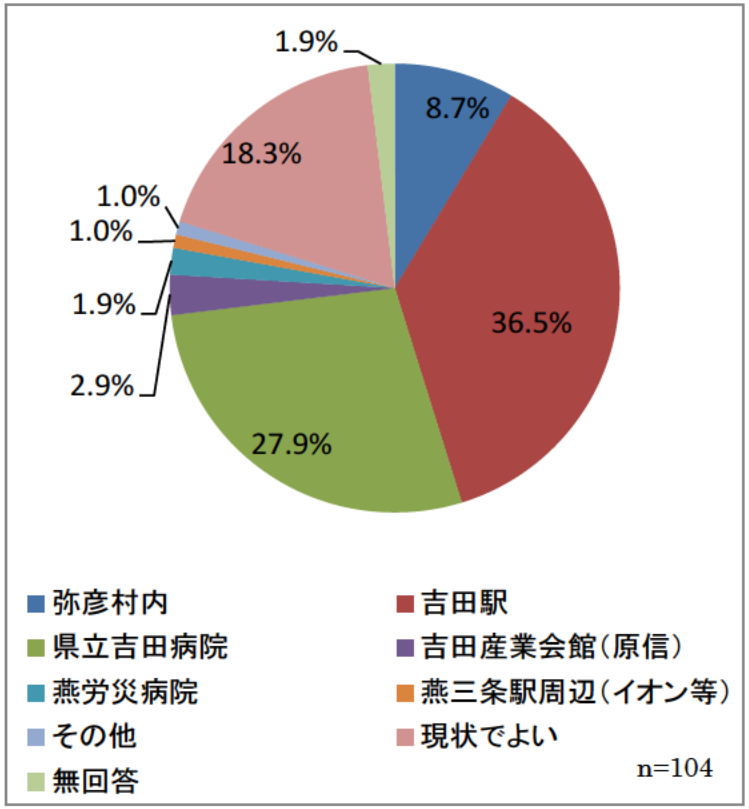


図　運行ルートの改善点(往きたい場所)

資料:平成26年巡回バス利用者アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-3. 外出の困りごと

○特に70歳以上の村民で、外出時に何らかの困りごとを抱えているものが多い。
○具体的には、送迎依頼がしづらい、外出回数の減少、買い物回数の減少、自家用車の運転をやめられないといったことが挙げられている。

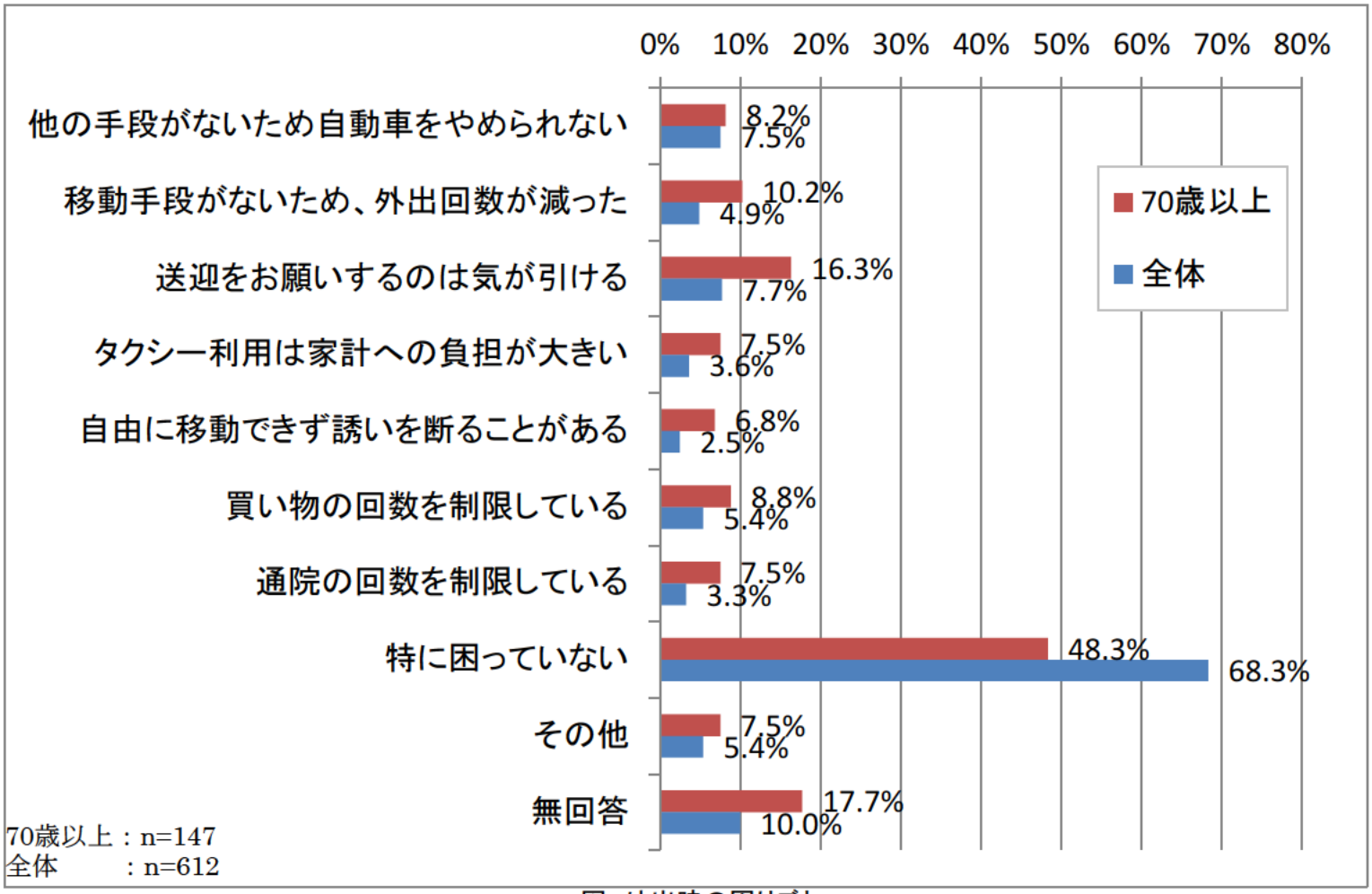


図　外出時の困りごと

資料：平成26年住民アンケート

# 2.弥彦村の現状

## 2-4. 広域公共交通へのニーズ

〇現在、公共交通の利用は非常に少ないものの、3割の村民は、広域公共交通を利用したい意向。
〇吉田地区の各施設や燕三条駅周辺へ行きたいという住民が多い。
〇平日すべて運行してほしいという意向が多い。

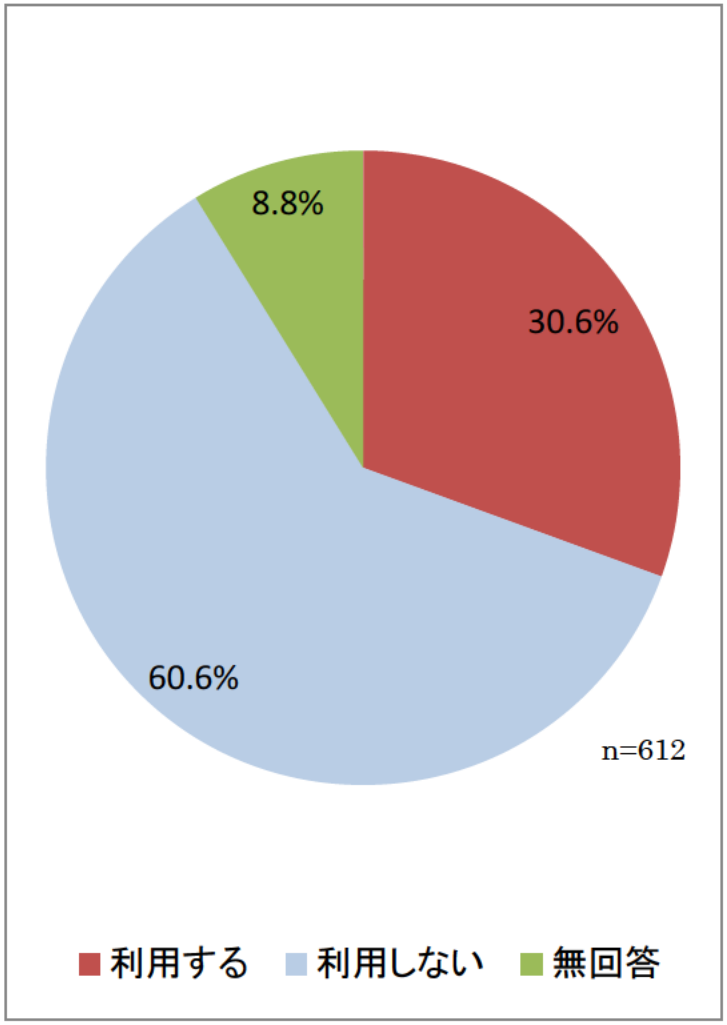


図　広域幹線バスの利用意向

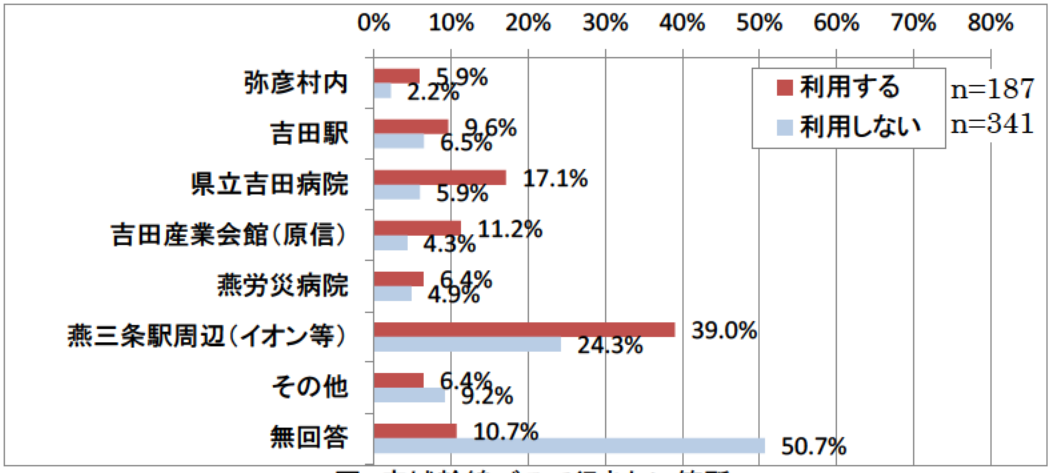


図　広域幹線バスで行きたい箇所

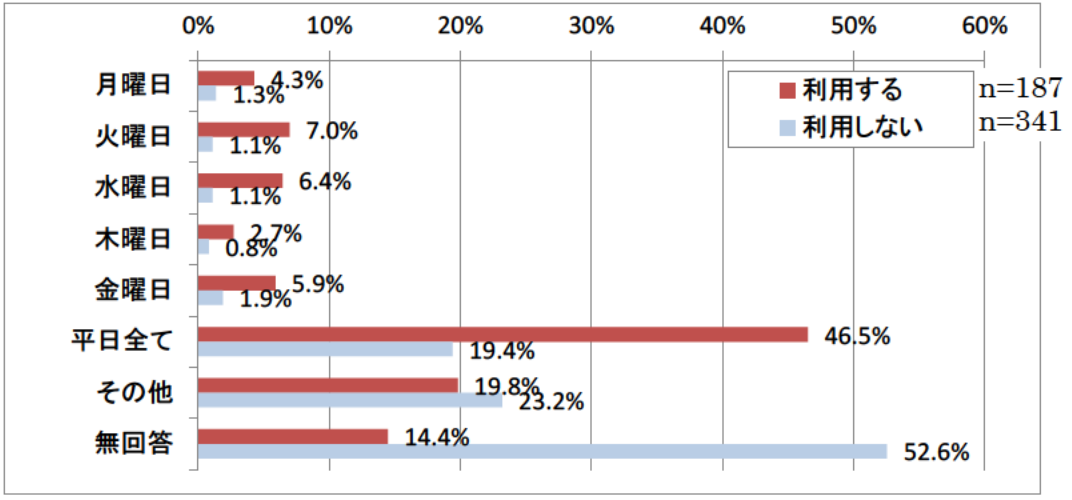


図　広域幹線バスを利用したい曜日

# 3.弥彦村の公共交通の課題

## 課題1：燕市との連携を強化する地域公共交通の運行が課題

- 特に関係の深い燕市との連携は、「定住自立圏構想」の下、強化していく必要がある。
- 高齢者や未成年者などを対象に弥彦村と燕市やその他周辺市区を連絡する地域公共交通が必要である。
- 現在ほとんど地域公共交通が利用されていない中で、広域幹線バスの利用意向を持つ村民が3割。

## 課題2：村民の移動実態に合った地域公共交通の運行内容検討が課題

- 巡回バスは利用者からは満足度が高いものの、特定の利用に限られてしまう傾向にある。
- また、巡回バスの運行内容は、下記の点で住民の日常生活や移動実態に必ずしも合っていない。
  - ✓吉田地区にアクセスしていない。
  - ✓弥彦村の乗り継ぎがうまくいっていない。
  - ✓頻度が少ない。
  - ✓通学や午前一番の通院が難しい。

## 課題3：新たな地域公共交通の運行と合わせた利用促進策の展開が課題

- 一般的に、便利な自家用車からバスや鉄道への転換は容易ではない。
- 運行にあたっては、わかりやすい情報提供やまず一度利用していただけるような利用促進策の展開が必要。

◆行政界をまたぐ広域公共交通は必要

◆同時に、情報提供や利用促進が必要

◆村民ニーズに合った運行となるよう、広域公共交通を育てていくことが必要